

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和7年度病害虫防除情報第7号

水稻のごま葉枯病について、以下の対策をお願いします。

令和7年はごま葉枯病の発生が多くなりました。田植前に土壌診断を実施し、診断結果に基づく土づくりを徹底しましょう。

1 作物名 早期水稻、普通期水稻

2 病害虫名 ごま葉枯病

3 令和7年の発生状況

- 1) 早期水稻では、7月中旬調査において、発生面積率が57.6%（平年11.7%）、発病度が3.9（平年1.1）、発病株率が15.2%（平年3.0%）といずれも平年比多であった（図1、図2）。
- 2) 普通期水稻では、9月中旬調査において、発生面積率が69.2%（平年39.3%）、発病度が10.9（平年4.6）、発病株率が32.1%（平年13.9%）といずれも平年比多であった（図3、図4）。

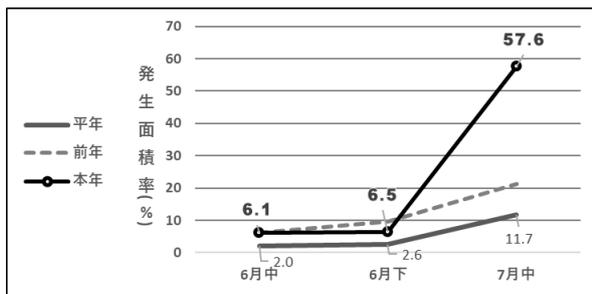


図1 早期水稻 発生面積率の推移

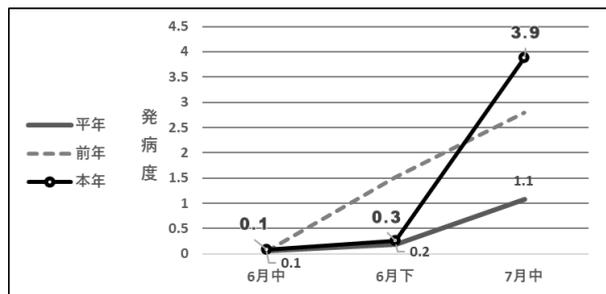


図2 早期水稻 発病度の推移

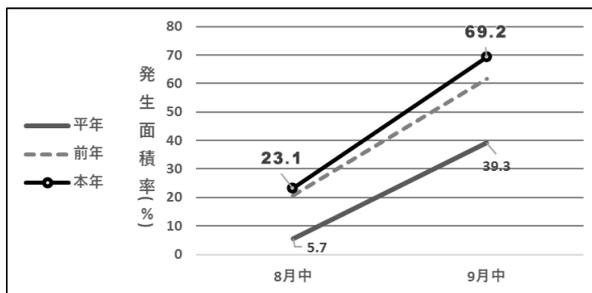


図3 普通期水稻 発生面積率の推移

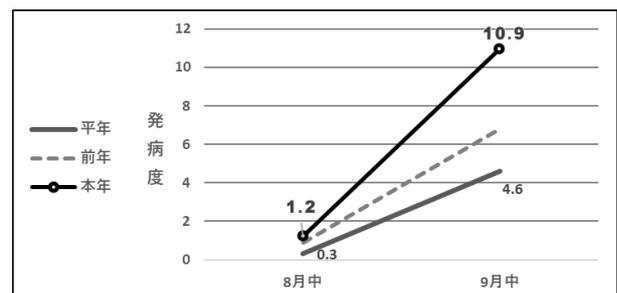


図4 普通期水稻 発病度の推移

4 本病の特徴

- 1) 本病の病斑は周りが褐色、中央が灰褐色～灰白色楕円形で、幼穂形成期ごろから下葉に病斑が形成され（図5）、穂ばらみ期以降急激に増加し、症状が進むと穂枯れが生じる。
- 2) 本病は砂質田、老朽化水田（秋落ち田）、肥料切れしやすい水田で発生しやすい。



図5 ごま葉枯病の多発水田

5 田植前の防除対策

- 1) 土壌診断を実施し、ケイ酸、カリ、鉄、マンガンが少ない場合は、ケイ酸カリやケイ鉄等の資材を積極的に投入し、稲の抵抗力を高めるための土壌改良を徹底する。
※施用量は各地域の栽培暦等を参考にすること
- 2) 有機物（堆肥）を施用する。堆肥は十分に腐熟したものをを用いる。
- 3) 本病原菌は種子伝染をするため、健全種子の利用及び種子消毒を徹底する。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 清、後藤

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

